



遠
號 990
卷 2

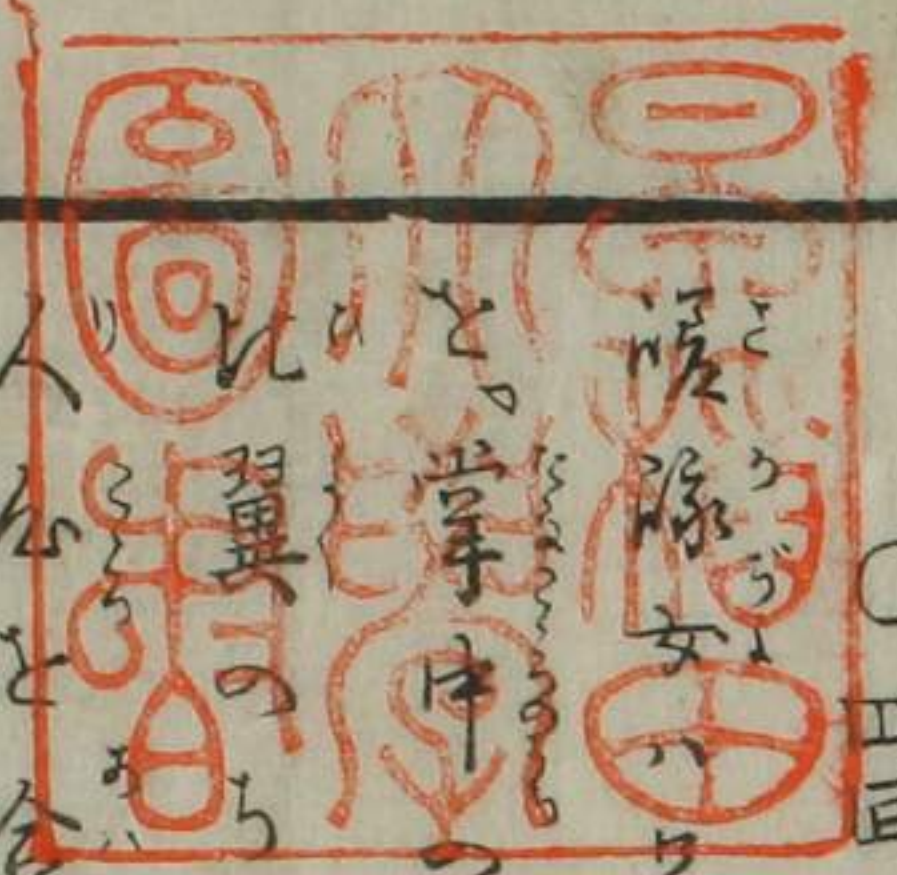
本清

もの

賣油郎卷之二

浪速 芝屋芝屋遺話

○田回 ふくましの



浪速のあつたのぶく。あいらひい傳介
と。掌中の珠と養ふりも。たが束の間の變化して
と。翼のらごうと結び。連理の約なる。是より兩
人かと合せて。義父のち前して。余を清が事と。あし
さまに。諺をそれとも。ある余左衛門の老くまなる上
双眼の光ハ失へども。心の明えぬら。よ照せらゆ。余
ま清が篤美なる性ハ。常によく知るて。又に見るも

賣油郎 卷之二

かり余を濁い食率おいてそのち燈火うたたり。性合
 ぬしなるぞふと牧方より送る金成おりの出でかけ
 硬と揉るふ子ふさいらどまの抽替をこくくち
 かへして足まどもあらぬをぶろくおりの収納の
 たるものいるとよと合家成あつぎふ。傳介の他は
 新たる位の本ゆへいさかもあらず。暖縁の空とけ
 きて。何ほどの金も有るがと同一。東屋余左衛門の院
 小飛報の来まる奉成志をば納所の遠ひならぬ。伝
 とこがく求ゆよとつよは任せておりのゆるぬきふと
 も。はとく小存まども。又は新清の知まざるといへば。

誰とうとぢふべと者もあらぬ。世俗よい伝人神
 隠しとつよものねらんと。さまがまよし其おの足
 さくハまがまよぬ。詰且ふりても其金の出まど。
 傳介のあやしむる居ると。暖縁の斤偶へまよ
 きて。よその縁をさやけに。傳介まとうちこ計
 業をいりて新まりと。雀踊してよろこばぬまより
 教日たちぬまど。系系深かくし。逆たる金なれ
 ば。又よ出べとやうもあらず。暖縁の縁新し事を云
 出て。不測くといふらし。一時おる余左衛門にいひ
 けるやうに。その日に金の失たる事。いふくしてをん得



中村
大南

ねととり人も侍もどよしやさほどの悪事ハ有はじ
 さとおめいさどめやうまぐしにふせしう奇妙法師の
 八卦の詞とねりい合ときばかりの牧方うり送られたる金
 とぶよふまところ者ハ余を湯のそ小してぶさうに死へ
 出どといへばそ時の飛報とうとぶべさいときぬい
 そりねいめいあたる者あらば形状と探見よとあし
 ちへんをけけるよ一つし余を湯がぶ小あたまり仇ま
 すまはちを隠してきつど殺するようたがひぬいと
 ぶあぶともふるしるさまと鼻も向りすいひしやしけ
 まば東屋をきて後天たしさとて馬をふる者と

おりい。そやで公家由つる小。とうがとさ人知て
 ろろとあさまとるさまそ息すたはまば暖味ハ社
 そまうたりとごぼろ笑いと押かしてけまるとさ
 小せバ。又いうねる大幸う仕出さん知まざとくけ
 家奴退出しりくしとすむまども。東屋ハ文に承引
 ず。彼金たしり小。余を湯が盗しとり澄もうらべ
 かまともる早妻女と便し。児の一人も出産する
 ころままが。控置またる幸も智むべさ小あたま。たご
 勝ましさい。満りのことさまもまも。そとてもまると
 見さげざる幸ままばまがしけ後の形状とて

寶源長

斗りし旨もろそぬべしと。思ふふら余を信つる事だ。
 後初も落居せま。暖味も志めていらぐ工の座やあ
 らはまんと。其月ハ止め。想じてもの。過塞ると死ハ自
 から。讐敵へござて。吾人も是と制する事あらはず。
 既ニ余を傍ハ義家とておま。揚ごくと成因果の月
 日ハぐりままる外。一日恒つどく油桶と擔籠て高
 ひよ出行よ。先の義父南方十字を傍。世に去るより
 七とせの聖教を經て。正當の忌日も往遠からぬと
 休廣良の進福と愛と侍人として。公斗の法施物ハ
 推南方式の具於寺ニ至らば。我身ハく。賣油師

とろりて。後のことなり。居住せるより。南方家ニ知ら
 せんも。うとてしくふり人ぐあへよ。一口邑の妙光寺ハ
 縁の寺よ。あままども。法造と信すよ。ハ。いづを成も
 若し。かるましとして新し。卒都婆と求め。一房の花
 一拾子の香と調へく。かの一口邑なる妙光寺。編ぬ
 糸茶け。寺ハ。平考。他高花をま。ハ。庖福。切て
 卒都婆。布施物とそへて。こし。出。義父が休廣
 忌。あたま。とと。と。語る。住僧も。孫。小。と。宣
 ひ。や。が。て。卒。堂。より。て。へ。と。懸。又。廻。向。を。ま。バ。余。を。厨。も
 香。を。と。持。げ。て。合。掌。を。も。讀。經。經。を。ぬ。ま。住。僧

余を物と大座に付ひ、非時の酒飯とまへらせんとあ
 る。余を物かゝり、因洋ふしかく、南ひのけめてまをば
 深條の縁袍と着し、乳板の用意あらざまは、席上
 瓜搾し、まらんこ。眾はべき事ふまは、只管免し、これ
 といへども、任傍より、中入びして、靈位に供せし、麻飯
 の相伴あまとして、一付五菜の撰とこえ、小傍ハ酒壺玉
 筆と持出まは、任傍より、菜蔬と呈び、来て、酒飯
 こそむ。余を物もこそし、むり用おまは、玉筆ととりあ
 くるふ。まは、浅し、是は換てんまといひて、け、挽
 ち、後ひは、融くまは、深くこまこと、下す。任傍より、こびて、

まをりまをり、ゆるおし、まぶ、よりの風吹とまを、やとら
 雪のち、ゆるまを、出て、いこ、まも、強りまは、平日、うり、ハ、
 色、一、ま、とて、飯、挽、ま、ぞ、り、ひ、ま、る、余、ま、傍、こ、ま、ふ、こ、ま、れ
 ども、せん、と、ぶ、る、く、肩、と、ま、ハ、ウ、て、や、う、く、の、飲、る、ま、
 ま、く、れ、を、迷、回、ら、ん、と、を、る、ふ、任、傍、一、封、の、包、を、出、し、
 け、根、子、外、而、文、目、ハ、足、下、近、境、ある、菜、殿、ハ、返、進、の
 根、子、ま、し、て、是、傍、方、より、お、せ、や、る、べ、き、事、ま、ま、と、ど、も、
 何、と、ぞ、在、け、ぬ、ハ、ま、う、り、と、ま、く、ま、う、い、し、ら、ば、い、と、や、と、ま、
 こ、ま、り、と、て、其、根、子、を、後、ま、て、他、擔、ま、へ、い、と、ま、と、ま、
 て、ま、出、け、る。



二後番改の侍助ハけ日菟通のあたまる得きへ行々が通
 小下弦の鼻法さらしつとさへたつと雪及と素あしと長
 くてまうてなるに思ひいふく被小溝の口よりおて足をと
 べらし小楯をつさてたうとるがうとらさまりらむとたうりて
 五人とるお竹のいふえにさるものあままが精んどころに
 火折るさどく戯まふら雪あうりおとこりえまがあよ余ま清が
 夫とひつろ一色の
 浪子にて侍助ハ
 ふゆのこころ
 天の
 うさひと
 こころ
 つらね

辺見えし猪坊として引うへしぬ暖隊ハ其お余を走
 小向ひてりやう今宵の一条も前日の金の虚妄も
 慥に新まぬ一口村の妙老寺にて法蓮のあひぬると
 いひしぞ機用の種よりして今日も穢枝をふところにな
 し。時侯の柔食まどとやいひて麻肉泥融極のたぐひ
 して。あくまで歟饌したる澄よかふびのなまぐさ死
 事。鼻が度ふと堪たりふんど好幸をいとまひふらぐ
 のごとく不淨の物と利んやと後うよおと謔言より。その
 うへ二桶の油ハ空糞とふりてゆりまぐら。價をおうへら
 ころハ幸通に空くまゝせんをばくして法蓮に遇しと

りんが。時刻の逆滞と防がんがたの。役事あつと。おり
 まし小所し入んと。かくねぢけ言をわやどりたる。座を
 のほどくそふくましけと。美や外面似菩薩の似え
 ほろねど。内公如夜ぬとつよよ。まんぞいふことろ有ん。
 ことし内家の余を借つも。け純よゆどのさまに十に八九
 ハ。たもあまねんと公候さぬ。余を濁ハね五朝。つもより
 ハとく起出で。かの辻堂の廻りを尋求まじも。一色の銀
 まの形方とほす。まにかめて大よ力候いと。入るごとくし
 とまゆりて。そのよと義父余を借つ小かくと若ろとす
 て。暖隊ハけ時と失いどと。飯よつけ粉よつけ防げさせり。

廉直の義父。いうてうかの女と家よりのいれど。とある
 とさ。朝夕のいほう小事とさるる。是又不孝の
 としひなり。としかく小我身。は家と志とぞくのほう。
 思案ぬしと変して。具身別宅のぬがひとせしけれ。
 義父大かのみあり。近き以のけ状。おんよあたはれども。
 色小そと酒に酔も。血柔の時ハあるぬらひなまば。
 怒ひる小更らず。いふつづのらば強く。教訓せんことを
 かりひつま。親とまりまとも。宿世の約束なまば。いふ
 てうん様んといひりまごり。小。汝よりして我ふいと句
 とさ。人の心の情とよ。げよく今。おひいとま。骨肉の

親にあらざらむへ。庭をうつりたり。て。後又孫を文
 の後蓋よ。暑寒の及衣。睡襖。睡褥とあらへて。いふ
 ととらせり。互の公程の幸さるる事。宿婦がなせる
 賢こそ情まじき。

〇六回 たうとさもの

於て余を測ハ。義家を出てより。世のありを托して。大山
 崎の所へつぎぬる。耳房をかま。文の孫貫文の孫と
 して。方の事収まらぬひり。が。まづるに。右。と。し
 たるむりふて。さひたる。福金一對。かまどにかけし。し
 睡襖。睡褥。紙幣と。かくと。びさ。平戸も。お。う。極家の



中しるまは、登こぼて、斬こぶる。何人か任あらしけんづく
 ろいだるさまで、漸く移来とせむ。お竹の生いゑとがささづ
 き。とこやかしく、おりのこりまじも、只健と、妻のあはまら
 たるこどもおれ。妹とらまは、山崎のおぐりおまじとて
 まより伏見の同屋よ。然る者おまじ、仕送りと托て
 健のいとまをとるさんと、おりども、義家とて、数年、控
 たるうち、生はるをんち、くのものまじ、又よ一、張のたく
 いへおれ、お強よこまりて、常用のこと、おしして、衣類とこ
 とぶく、賣拂ひ。且、健の家生と、調へ、其あまり、お
 限るは、ぐる同屋よ、あづけて、仕送り、お托くる、お入る、お

余き、傍が、馬、又よし、為、命、おると、あはま、と、撥、奉、や
 らんと、おり、お志し、ある、おへ、と、く、ま、と、て、おれ、健と、撥、候、よ
 價、やと、く、仕、入、や、り、を、ま、お、は、ま、よ、う、こ、ひ、後、の、廻、は、凡、義、家
 の、元、ま、お、ま、を、お、土、地、を、除、と、て、横、大、路、竹、田、下、鳥、羽、と、鳥
 羽、より、お、の、塚、東、寺、お、た、り、ま、じ、日、く、高、ひ、お、出、り、なる、が、又
 賣、と、は、ま、日、の、お、お、く、や、この、西、お、ま、さ、う、の、お、と、り、千、奉、通
 七、奉、お、西、原、お、野、ま、て、も、健、と、い、さ、く、も、お、れ、よ、と、お、く、お、れ
 健、の、健、賣、の、代、お、より、お、え、ま、よ、く、と、お、れ、よ、お、た、い、も
 易、し、と、お、こ、し、お、れ、よ、お、れ、ま、よ、く、と、お、れ、よ、お、れ、い
 々、年、毎、の、三、月、お、ハ、主、生、寺、よ、大、念、佛、の、供、養、あ、つ、て、

賣由昂

豊由印



豊由印

